

未来に向けて

千葉市総合展覧会科学部門は本年度で61回を迎え、科学論文集も第58集を完成させることができました。

今年の科学工夫作品では、「こんなおもちゃがあったら楽しいだろうな」という発想から作られているものや、また「思い出」のワンシーンを作品にしたもの、日常生活や学校の授業での学習内容を活用した作品が多くみられました。中でも、これから小学校で学習することになるプログラミングを使った作品が幾つか見られていたのが印象的でした。

科学論文では、「不思議だな」、という疑問を持ち、粘り強い観察や実験の結果から、自然のきまりを発見しているものが多く、研究への熱心な取組がわかるすばらしい論文ばかりでした。

平成30年の大きなニュースは、ノーベル医学・生理学賞に、京都大学特別教授の本庶佑さんが選ばれたことです。平成28年に受賞した大隅良典さんに続いて、日本人の医学・生理学賞の受賞は5人目となります。この医学・生理学賞は古くは1962年にDNAの二重らせん構造を発見したワトソンとクリックも受賞した偉大な賞です。

本庶さんの研究により作られた、ガンの免疫薬「オプジーボ」により、肺がんや胃がんを完治できるようになってきているという研究成果は、病気で苦しんでいる人にとって本当にありがたいものだと思います。

また、最近では血液のガンに対しても自分の血液細胞の遺伝子を操作し、体内のがん細胞を攻撃できる細胞につくり変えたうえで、再び体内に戻す治療法が可能になったというニュースもありました。このように、日々の研究の成果により、以前とは異なり、「ガン」という病気を治療することができるようになっていきます。

本庶さんは受賞時に、「教科書が全て正しかったら科学の進歩はない。なぜかと疑っていくことが重要だ。」とコメントしています。

皆さんも、今回取り組んだ研究や工夫作品の制作を契機に、身の回りのあらゆる場面において、工夫したり追究したりする心を忘れずに、チャレンジを続け、自分の答えを追い求めてください。皆さんの活躍を心から期待しています。

結びに、この作品展の今後の発展と、役員の皆様のご尽力に心より感謝して、ご挨拶とさせていただきます。

平成31年3月

千葉市教育委員会学校教育部

教育指導課長 中嶋 のり子